

第6回 震災問題研究交流会

主催：震災問題研究ネットワーク

日本社会学会 震災問題情報連絡会

震災問題研究交流会を、今年度も下記のとおり開催いたします。この交流会は、日本社会学会の研究活動委員会を中心に設けられた震災問題情報連絡会から発展したものです。現在は、日本社会学会理事会に防災学術連携体担当を置いておりますので、そこと震災問題研究ネットワークとの連携というかたちで開催いたします。今年度も、幅広い分野からの参加を歓迎いたします。

東日本大震災に限らず、昨今の熊本地震や西日本集中豪雨災害、台風被害、北海道地震、北大阪地震等の甚大な災害の発生を念頭において、災害と社会との関わりや影響を含めて幅広い研究交流が出来ればという思いから、第4回(一昨年度)より「震災問題研究交流会」と名称を変えて開催しております。発表者だけでなく、参加して一緒に討論していただける方、社会学者と一緒に議論してみたい他分野の研究者、行政担当者、マスコミ関係者、災害研究に関心をお持ちの方にも参加していただきたいと思っています。

※昨年までの研究交流会プログラムなどの情報、及び昨年度までの交流会報告書につきましては、次のリンク先からご覧いただけます。 <https://greatearthquakeresearchnet.jimdo.com/>

日本社会学会 防災学術連携体担当

震災問題研究ネットワーク代表 浦野正樹(早稲田大学)

記

開催日時：2020年3月20日(金)～21日(土)

9:30～18:00

開催場所：早稲田大学戸山キャンパス(文学学術院キャンパス)

33号館3階第一会議室

受付：33号館3階 第一会議室前

[3月20日のプログラム]

9:10～ 受付開始

9:30～12:00 第1セッション【災害ボランティアと地域防災の担い手、及びその育成】

12:20～13:20 第2セッション(ランチョン・セッション)

【パキスタン地震をめぐる推移と課題:事例報告】

*ランチョン・セッションに参加される方は、昼食を近くのコンビニなどで調達の上、会場に参集してください。

食事をしながら、開始するセッションとなります。報告は英語で行われます。

13:30～16:00 第3セッション【原子力災害と避難生活/復興への課題をめぐって】

16:20～18:00 第4セッション【復興支援と被災地住民の生活選択】

18:30～20:30 懇親・懇談会(震災問題研究ネットワークの今後をめぐって)

第1日目 (3月20日)

午前の部会 9:30~12:00

第1セッション【災害ボランティアと地域防災の担い手、及びその育成】

- 1-1 報告 ○宮本淳子(常葉大学短期大学部)・長谷川由美(近畿大学)
「災害時におけるコミュニティ放送局のソーシャルメディア使用——外国人に対する情報保障の視点から」
- 1-2 報告 ○菅磨志保(関西大学)・佐村河内力(茨木市社会福祉協議会)・坪井塑太郎(人と防災未来センター)・山上義之・山崎祐太・宮都成和・藤森海斗(関西大学)
「災害時における外部支援の受入れに資する対応体制の検討——大阪府北部地震における府域・市町村域・地域の事例から」
- 1-3 報告 金丸恵美子(創価学会平和運動局)
「『信仰を基盤とする団体(FBO)』が災害救援や復興支援に果たす役割」
- 1-4 報告 津田壮章(京都大学人間・環境学研究科)
「自衛隊退職者団体の防災協力事業——隊友会による地域貢献の歴史社会的分析」
- 1-5 報告 池田恵子(静岡大学)
「『女性／ジェンダー／多様性の視点』をめぐる地域防災の担い手と住民の認識」
- 1-6 報告 三隅一人(九州大学大学院比較社会文化研究院)
「『クロスロード』を活用した社会学教材の開発」

ランチオン・セッション 12:20~13:20

第2セッション【パキスタン地震をめぐる推移と課題:事例報告】

- 2-1 報告 Suhail Ahmed, Shahnawaz, Shahid Siyal (Shah Abdul Latif University)
“Pakistan Earthquakes : An Overview”
- 2-2 報告 Mour Khan, Shahid Siyal, Nasreen Iqbal (Shah Abdul Latif University)
“Pakistan Seismic tremors: A Review”

午後の部会 13:30~16:00

第3セッション【原子力災害と避難生活／復興への課題をめぐって】

- 3-1 報告 水田恵三(尚絅学院大学)
「復興政策が原発避難者に及ぼした影響」
- 3-2 報告 ○原口弥生(茨城大学)・武田直樹(筑波学院大学)
「原発避難の長期化・多様化と支援の変容——茨城と西日本の比較を通して」
- 3-3 報告 ○浅野富美枝(宮城学院女子大学生生活環境科学研究所)・天童睦子(宮城学院女子大学一般教育部)

「広域避難者を核としたサロン活動を作り上げた女性たち——9年間の変遷」

3-4 報告 遠藤崇広(放送大学大学院文化科学研究科文化科学専攻)

「福島第一原発事故被災地 福島県双葉郡の住民帰還を妨げるもの——現地調査と被災者インタビューからの検証」

3-5 報告 辻岳史(国立環境研究所福島支部)

「福島県飯舘村における木質バイオマス利活用事業の導入検討に係る政策過程」

3-6 報告 吉田耕平(首都大学東京人文科学研究科)

「なぜ災害研究は『職場』を論じないのか——福島原発事故後の産業・職業過程に現れる被災と再生の意味から考える」

3-7 報告 横山智樹(首都大学東京大学院/日本学術振興会特別研究員)

「政府のいう『復興』とは何か——原発事故後の政府文書の批判的分析から」

夕方の部会 16:20~18:00

第4セッション【復興支援と被災地住民の生活選択】

4-1 報告 土屋葉子(早稲田大学人間総合研究センター)

「東日本大震災～4年後の津波経験者の生存後悔(survivors' guilt)について——宮城・岩手調査」

4-2 報告 市川享子(東海大学健康学部健康マネジメント学科)

「岩手県大槌町におけるボランティアの関与とレジリエンスに関する研究」

4-3 報告 飯坂正弘(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構本部経営戦略本部)

「その後の仙台『深沼・荒浜』——都市農村交流活動の展開に向けて」

4-4 報告 ○妹尾渉(国立教育政策研究所)・松田洋介(大東文化大学)

「被災地の進路選択——東日本大震災後の東北沿岸部の高等教育進学率の動向に焦点をあてて」

18:30~20:30

【懇親・懇談会】 会場 第一会議室(33号館3階) 会費 2500円

第4セッション終了後、飲食を共にしながら、今後の震災研究に向けて自由な懇談・懇親の会を行い、自由な意見交換の機会にしたいと思います。参加いただける方は、第一会議室にお残りください。懇親会の出欠につきましては当日、会場にて報告者・出席者の皆様にお伺いいたします。会費につきましても当日お支払ください。

第2日目 (3月21日)

* 研究交流会の2日目は、2019年度から開始された科研Aプロジェクトに関する研究懇談会を兼ねており、主として科研プロジェクトの研究現況に関する報告が中心になります。なお、ランチョン・セッションとして行われる<書評セッション>は、震災と学校に関する研究グループの研究成果を踏まえたセッションになります。1日目に続き、多くの研究者の参加をお待ちしております。会場は1日目と同様、第一会議室です。

午前の部会 9:30～11:40

科研調査セッション1 [災害過程の各段階における達成指標／復興指標に関して]

指標Gの成果と討議

*このセッションの時間の一部を使って、下記の報告を行います。

5-1 報告 室井研二(名古屋大学)

「避難と災害文化——宮城県津波被災地の比較分析」

5-2 報告 ○吉野英岐(岩手県立大学)・内田龍史(関西大学)・西田奈保子(福島大学)・高木竜輔(尚絅学院大)

「岩手県・宮城県・福島県における災害(復興)公営住宅入居者の生活実態(速報)」

ランチョン・セッション 12:00～13:10

書評セッション『震災と学校のエスノグラフィー』

清水睦美他『震災と学校のエスノグラフィー:近代教育の慣性と摩擦』(勁草書房、2月28日刊行)を対象にした書評セッションを開催いたします。

*ランチョン・セッションに参加される方は、昼食を近くのコンビニなどで調達の上、会場に参集してください。食事をしながら、開始するセッションとなります。

午後の部会 13:20～15:20

科研調査セッション2 [現地調査を踏まえた災害過程／復興過程に関して]

現地調査Gの成果と討議

夕方の部会 15:30～17:30

科研調査セッション3 [復興政策及び科研調査全般に関して]

復興政策Gの問題提起及び全体討議

【抜刷交換コーナーについて】

第一会議室(33号館3階)の後方周辺に抜刷交換コーナーを用意いたします。ご利用ください。

【昼食】

キャンパス内には、この時期、昼食のできる施設はありません。キャンパス近くには飲食店が多数あり、またコンビニエンスストアなども近くにあります。会場内で食事をしていただいても構いませんので、各自ご用意ください。

【報告者への連絡事項】

- *会場にはコピー設備がありません。配布資料などは各自が50部コピーのうえ持参してください。
- *報告時間は原則として1報告上限15分とします。質疑応答については、司会者の判断で適宜設ける予定です。
- *会場には、プロジェクタとパソコン接続用ケーブル(Mini D-Sub15ピン)、及び備え付けのコンピュータが備わっております。なお、Apple社製パソコンを使用する場合には、専用の変換アダプタも各自でお持ちください。パソコン等を使用する場合には、開始15分前に会場にお越しいただき、各報告・セッション参加者と協力・相談のうえ、接続および動作確認をお願いいたします。

【問い合わせ先】

本研究交流会についての問い合わせは、「震災問題研究会事務局」までメールでお願いいたします。

(office150315dcworkshop@gmail.com)

【会場案内】

早稲田大学戸山キャンパス 33号館

<https://www.waseda.jp/top/access/toyama-campus>

(備考)

* 戸山キャンパスは、地下鉄東西線早稲田駅下車徒歩5分

(地下鉄早稲田駅からの経路、及び構内地図は、上記 URL を参照してください。早稲田駅から戸山キャンパスへの経路は、穴八幡の神社と交番が角にある十字路が目安になります。)

* 研究会の会場は、戸山キャンパス(文学学術院)で最も高い**33号館の建物の3階(第一会議室)**です。今回は、この会場をメイン会場にし、予備会場として、同館3階の 33-332 教室を、また同館3階奥にある第二会議室を大会本部として、使用します。

早稲田大学戸山キャンパス 構内図

